＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373000688
法人名	社会福祉法人栄和福祉会
事業所名	グループホームたのうらそう
訪問調査日	平成　20　年　　1　月　18　日
評価確定日	平成　20　年　　2　月　15　日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 2月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	4373000688
法人名	社会福祉法人栄和福祉会
事業所名	グループホームたのうらそう
所在地 （電話番号）	熊本県葦北郡芦北町大字田浦町822－3 （電　話）0966－67－3430

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6－41－5
訪問調査日	平成20年1月18日

【情報提供票より】（19年12月　1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17　年　4　月　　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　　9　　人
職員数	8　　人	常勤　8　人，非常勤　0　人，常勤換算　7　人

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造　造り	
	1 階建ての　　1 階　～　　階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	19500～20150　円		その他の経費（月額）	事務管理2000　円他
敷　　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250　円	昼食	350　円
	夕食	400　円	おやつ	円
	または1日当たり　1000　円			

（4）利用者の概要（12月　1日現在）

利用者人数		9 名	男性　2 名	女性	7 名
要介護1		1　名	要介護2	2	名
要介護3		5　名	要介護4	1	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	87 歳	最低　81 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	百崎内科医院、熊本労災病院、水俣病院、藤崎歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホームを母体に開設されて3年。ホームではやさしく、尊厳を守ることを第一に考えて、スタッフが入居者に笑顔でやさしく接している様子がみられた。また、地域とのつながりを大切に考えて、入居者が地域の中で、これまでの生活を継続できるように心がけたケアを行っている。建物全体が明るく清潔感に溢れ、スタッフの手によって、花や絵や小物などで温かく居心地のよい空間がつくられ、入居者の穏やかな表情が印象的である。また、母体施設の協力が加わり、家族の安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価を受けて、早めに準備されていた薬は服薬直前に手渡すなど改善されていた。また、取り出し易さを重視したおむつの置き場所に、プライバシーの配慮を加えた改善が行われていた。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は全員で取り組み、それぞれに一年間を振り返ってよりよいケアにつなげていこうとする積極的な姿勢がみられた。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議では、外部評価結果の報告や、行事報告・協力依頼等を主な議題として開催され、畑の作物の作り方のアドバイスをもらったり、包括支援センターから成年後見制度について指導を受けるなど、多様な活用がみられる。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族代表も運営推進会議に出席し、意見を出している。また、入居者の近況と健康状態等を知らせる手紙と共に入居者の写真を毎月家族に送付しており、不安の除去に努め、意見を取り入れた報告をしている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

散歩や買い物に出かける他、事前に地域にチラシを配って、ホームで収穫した野菜を朝市で販売したり、保育園との交流や中高生の職場体験を引き受けたりしている。また、近くの畑の方が、時に野菜や果物を差し入れてくれたりして、徐々に交流が広がっている。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時にスタッフ全員で考えて作った5項目の理念があり、「やさしく家族の一員として尊厳を守ります」という理念を一番に掲げている。さらに「自然と共生し、笑顔が絶えない安らぎのある家を作ります」という理念の中に、地域とのつながりを大切にしたいという姿勢を盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフ各人の名札の裏に記載されており、機会あるごとに読み返し、心に留め、実践に向けた意識づけが行われている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで収穫した野菜を、事前に近隣へチラシを配り、朝市を開催して格安で販売するなど、地域の方々との交流を図っている。また、保育園の運動会を見学に行ったり、園児たちがホームへ大根掘りに来るといった交流があり、今後もさらに交流を深めるため、ホームをお散歩コースの休憩所として使ってもらう要望も出している。近くの農家の方から野菜や果物の差し入れもあっている。	○	地域交流の進むなか、最も近い団地の方との交流が進んでいないということであり、今後ホームのよき理解者・協力者となっていただくために、新たな取り組みでの交流を期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組み、その意義を理解し、それぞれに1年間を振り返って、よりよいケアにつなげる機会として捉えている。外部評価の結果は運営推進会議に報告し、意見を聞き、改善へ繋げる積極的な姿勢がみられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価結果・入居者の日常生活・行事等の報告の他、協力依頼等を行い活用体制が取られている。農業経験のある委員からは畑の農作物の作り方へのアドバイス、包括支援センターから成年後見制度についての説明を受けるなど、多様な意見や指導を得て、より良い運営につなげる取り組みとなっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町行政との関わりは運営推進会議の委員として会議への出席を得ているが、その他の連携は今後の課題となっている。	○	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられ、町行政との連携は以前にも増して重要になっている。町にホームのことを理解してもらい、共に協力してよりよいホームを作るために、他のホームと連携を図った働きかけも必要かと思われる。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に、入居者の近況報告を行っている。また、毎月1回、生活の様子・健康状態・預かり金の収支を報告すると同時に、ホーム内外での入居者の表情を伝える写真を添えて家族に送付したり、法人の季刊誌「田の浦荘」も季節ごとに届け、安心を得ている。また、文章の書ける入居者は家族に年賀状を書く取り組みもしており、家族に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表も出席し、意見を出している。家族の訪問時は、お茶などを出してくつろいでもらい、要望・意見・不満など何でも言ってもらうよう促している。また、年度当初に家族説明会を開催し、医療機関受診の際の対応と、重度化・終末期の対応方針等について説明し、意見交換を行っている。	○	家族との交流は蜜に図られているが、家族同志の思いや意見を得る方策のひとつとして、「家族会」の設置も良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動は適材適所の考えから、法人内で多少行われている。入居者の混乱がないよう研修期間を設けており、異動日より2週間～1ヶ月前から夜勤を含めた実地研修を行っている。これまでのところ、特に異動による入居者の混乱はあっていない。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、法人全体で介護情報誌をテキストとした勉強会を実施。また、社協主催の研修会等へも定期的に参加し、生活の中で研修内容を実践しながらスタッフ全員での共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣・葦北地域の10のグループホームで、年に3回程度会議を開催。事例研究・講師を迎えての勉強会を行う他、交流会で悩みや疑問点を出し合って問題解決法等を話し合い、全体の質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に母体法人の特養へショートステイやデイサービスの経験者が多く、特養との連携を取りながら馴染みの関係を作る努力が行われている。また、入居前に家族と共にホームを見学し納得を得ているが、見学できない方へは家庭状況を把握するために何度か自宅を訪問し、事前に馴染みの関係を作る対応が取られている。さらに、ホームに馴染むまで、見守りの時間を30分おきから1時間、2時間と徐々に間隔をあけながら、他の入居者・スタッフ、そしてホームの生活に馴染んでもらう対応がとられている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作り・干し柿作りなど、入居者に指導を得ながら実施され、野菜は朝市を開催するほど収穫があり、入居者がチラシを配って販売するなど、活躍の場が設けられている。また、レクリエーションでは、入居者から昔の歌や童謡などを教えてもらい盛り上がる等、共に楽しむ日常も形成されている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しており、家族の協力を得て、入居者の生活歴・日常生活・習慣・趣味趣向・希望など、基本情報を詳細に把握している。また、日常の会話の中で入居者の思いや意向を把握し、情報にボリュームを付け、より充実したものにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	把握した基本情報を基に、本人・家族の意向を踏まえ、可能な限りこれまでと同様の生活ができるように配慮した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居当初は3カ月ごとに計画の見直しを行い、状態が落ち着いてからは半年ごとに見直しを行っている。また、入院や状態の変化が見られる際は、その都度ケース検討会議で見直し、家族に説明を行って新たな計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物・ドライブなどの外出や、帰省・ふるさと訪問の支援が行われ、生活の幅を広げている。また、入居者の整髪はほとんどスタッフの手で行い、希望があれば理・美容院への同行をするなど、柔軟な対応となっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族とも話し合いを行い、ホーム嘱託医の他、希望するかかりつけ医の受診を行っている。嘱託医の受診はスタッフで対応し、町外のかかりつけ医を利用する場合は、ホームの人員体制に支障をきたさないように、家族対応を基本としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的にホームでの看取りは行わない方針を定めており、ホームでの暮らしが難しいほど重度化がみられた場合は、母体の特別養護老人ホームや病院との連携を取り、移動について、家族へ説明を行い、了承を得ている。また、移動前後の情報の共有化についての方針も、明確にしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りを損ねることのないよう、腰は低く、声は抑えぎみの対応で、目線が高くならないような対応がみられた。また、プライバシーの保護や個人情報の取り扱いについては十分注意し、個人記録等は施錠し保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理をしないで、ゆっくりと入居者のペースに合わせた対応がみられた。帰宅願望や、外出希望のある方には、スタッフが付き添い一緒に行動し、優しく支援するなどの対応がみられた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で入居者と育て収穫された野菜は食卓にのぼり、入居者の楽しみとなっている。食事の準備の手伝いはみられなかったが、食後は一部の入居者が食器の片づけや台ふきを手伝う姿が見られた。食事は味も見た目もよく、入居者から、「毎日おいしいです」との声もあり、食事を楽しむ様子が見られた。	○	スタッフは持参した弁当を入居者と同じテーブルで介助しながらの食事となっていたが、スタッフが同じものを食べることで得られる気づきや、入居者の喜びがあると思われる。交替ででも、同じものを食する機会を作る検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・水・金の午前中が基本となっているが、体調不良や気分が乗らず入浴できなかった入居者には、午後や翌日の対応が行われている。また、大きい浴槽に、仲のいい人が二人で入浴するなど、楽しむ支援もある。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現役時代の経験を活かし、畑仕事・野菜の植え付けの指導をしてもらったり、洗濯物干し・たたみ、食事の後かたづけ等活躍する場面づくりも行われている。また、月2回社協が主催する、遊びながら頭と体を動かす「あそびReパーク」に全員で出かけて参加し、PTの指導で、リズムに合わせて太鼓をたたいたり、パズルをしたり、楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に付き添ったり、月二回、「あそびRe パーク」に参加する他、時には車で遠方まで買い物に出かけている。また、「ふるさと訪問」として、昔住んでいた家の近くまでドライブし、生活の継続性を大切にした外出支援も行われている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠されておらず、自由に出入りできるようになっている。建物内は真っ直ぐな廊下の両側に居室があり、見通しが良く、注意深く見守ることで、入居者の安全に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年三回実施し、消防署への通報訓練も行われている。電話の側に通報メモが貼られ、緊急時の通報に備え、事務所には緊急時に近隣に知らせるためのサイレン兼用の拡声器も準備されている。また、各居室にはヘルメットを備え付ける等の取り組みも見られた。	○	避難訓練には、入居者の転倒等の危険防止を勘案し、参加せず見学のみとなっているが、いざという時に適切に誘導し、慌てず避難できるよう、安全に配慮しながら入居者の参加も必要と思われる。また、地域の協力体制について、運営推進会議等で検討するのもよいと思われる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理の経験者が栄養のバランスを考えながら献立をつくり、食事の提供となっている。食事量・水分量はきちんと確保できるようチェック表で把握し、入居者の栄養管理にも十分注意が払われている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い敷地には施設長手作りの花壇があり、玄関前には奇麗な花が咲き、ベンチが置かれてくつろげる場となっている。中に入ると地域の方から寄贈された金魚に出迎えられ、心を和ませてくれる。リビングにはテレビ・全員が座れるソファーがあり、季節ごとに手作りのクッションが置かれるなど、やさしく温かい雰囲気の中、入居者は気持ちよくくつろぐ姿が見られた。建物全体が明るく清潔感にあふれ、花や絵、手作りの小物等で飾られ、居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングにソファーを置いてあったり、畳を敷いてこたつを持ち込んだり、各人の生活スタイルに合わせた室内となっている。それぞれ馴染みの家具を持ってきたり、壁には家族やスタッフの手によって自分や家族の写真を貼ったり、花や小物が飾られ、思い思いの過ごしやすい部屋になっている。カーテンはリースで、配色・厚さ等考慮され、毎年クリーニングされ、防湿・防カビ・防埃への配慮がある。また、本物と見間違う、消臭効果のある美しい胡蝶蘭の造花の鉢が置かれ、明るく華やかな居室となっている。		

自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームたのうらそう
（ユニット名）	1ユニット
所在地 （県・市町村名）	熊本県葦北郡芦北町大字田浦町822－3
記入者名 （管理者）	白浜　章二
記入日	平成　19年　11月　30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所の理念で「自然と共生し笑顔が耐えない安らぎのある家を作ります」とあります。自然と共生を地域とのつながりと考え地域の中の暮らしを大事にしています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	7月に地域の交流の一環として「朝市」を開催しました。畑で採れた野菜を格安で地域の方たちに提供し交流を図りました。お客さんの感想として「普段と違って利用者の方が生き生きしてたよ」との感想もありました。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族、DR,とも話して回想法の一環として一利用者の「ふるさと訪問」に行ってみました。アルツハイマー症の方ですが、昔を少し思い出し「あそこの道を山越えして本を買いに行きよった」等、色々な話を聞かせていただきました。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝市にグループホームの隣人である団地の方々に案内を呼びかけるチラシを2度にわたって配布し気軽に立ち寄ってもらうように働きかけました。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の保育園の運動会に見物参加を行いました。今後老人会等に働きかけ交流を求めて行きたいと思います。	○	保育園との交流を図りたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会との交流を考えているがまだ実現に至っていない。話の中で保育園のお散歩コースに休憩所などにいれてもらえればなど話し合っている。	○	
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今まで受けた外部評価の改善点を基に改善はされている。職員にも自己評価の記入を求めて啓発に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、前後の行事を行ってきた説明と日常生活の様子などを報告している。話し合いの中で意見があった事には検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者との行き来は運営推進会議のみなので機会を多くつくらなければいけないと考える。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての学びは包括支援センターが市町村の相談窓口となっているので運営推進会議で担当者に講義していただくことなど考えたい。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	各委員会を発足し勉強会で各職員が学んでいくようにしたい	○	

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族説明会を開催し入院にいたった際の説明、医療機関への通院等に関する事項などの説明を行い。その後新たな入所者には契約の際に資料を基に説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への利用者の参加がある。管理者、職員も利用者の訴えには傾聴を行っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、日常生活の状況と健康状態を家族に報告、写真もあわせて送付している。運営推進会議で家族代表者より「毎月、写真もあわせて報告されているので安心している。」の言葉も聞かれた。金銭管理についても毎月預かり者については収支の報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族代表者の参加がある。また4月に家族説明会を開催し意見を聞いた。	○	意見箱の設置などを考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事ごとなどや勤務形態、業務について職員と話し合いながら行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の急変時や行事ごとなど勤務調整で職員を確保したり調整を掛けている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	適材適所へ異動があるので職員の入れ替えも多少行われている。異動にての利用者の混乱はない。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は介護主任を管理者育成のために研修に派遣を行った。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者で作るブロック会があり、そこに参加をしながら勉強会や意見交換を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会などを催し各事業所が集まりストレス軽減に努められている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標管理シートで各事業所の目標をあげ評価を行い仕事においての向上心を養われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時の家族の不安今までの経緯などを聴き不安解消に努めている。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	センター方式を用い家族に協力していただくところはお願いをして記載して頂いている。そのなかから家族の要望等もわかる。また、面会の際などに聞くようにはしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「出来るだけ自分の足で歩くように」と望まれる家族が折られるので車椅子は使用せずに手引き歩行などの支援を行っている。他のサービスを望まれる家族は現在のところ居られない。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居室については家庭で使っていた私物を持ってきてもらうように依頼をしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	リハビリ体操やレクレーション時に昔の歌や童謡など利用者から教えてもらうことも多い、又野菜の作り方や干し柿作りなどは利用者に教わりながら行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	朝市に家族が訪れ野菜を利用者から買っていかれたり交流を図る事が		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式で家族に昔の履歴等を記載協力をお願いした。全部の家族とはいえないが、履歴をしり職員も家族との関係を把握しご家族とのよい関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問で昔本人の家の場所まで行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクレーションや外出は全部の利用者に声掛けし行っているが「やりたくない」「調子が悪いからでたくない」と言われるときは個人を尊重し無理には誘っていない。		他の利用者とトラブルになりやすい方はケアプランで取り決め行い職員が間に入るようにしている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所になられた方などについては、年賀状の挨拶などを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から昔の暮らしぶりなどを聞き話題のなかに取り入れて援助を行ったりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し一人一人の暮らし方、生活環境等、把握に努めている。朝はパン食であったと家族からの記載から判った方は日曜日にパン食を取り入れるなどを行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間での申し送りで夜間の様子、状態把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケース検討会議を開催し職員の意見も聞きながら介護計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	およそ3ヶ月毎に見直しを行い状態が落ち着いている方については半年に伸ばし見直しを行う。入院、状態の変化があったときは見直しを行い介護計画作成し家族に説明し署名、押印お願いしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌記録、個別の支援経過記録を記載し担当者の気づきなどは申し送りや話し合い時に意見を出し対応を行っている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族から法事等で家に連れて行きたいなどの帰省の要望は即対応し帰省できるように支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の交番からは警察官立ち寄り所として依頼すればきていただくようになっており民生委員からは地域の情報を頂いている。他、地域の中学生の職場体験等の受け入れを行っている。	○	保育園との交流を図りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスと言えば介護予防事業に協力参加を行っている。他、地域の居宅事業所を回りケアマネージャーとの連携が取れるように始めた段階である。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター所長は運営推進会議に参加してもらっているので色々な情報を出来るだけ共有し協働できるように働きかけていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	脳神経内科専門医が主治医となっている方については主治医に相談して対応を行ったり受診を行ったりしておりその時の報告、相談も家族には入れている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	幸い現在、2名の方の主治医が認知症に詳しい医師で相談を行いながら対応しており経過についても報告をおこなっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所については特養の看護師に相談しながら医療支援を行い訪問看護師がきていただく方は定期に訪問看護師にきていただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された方については病院に問い合わせたりしているが「基本的に答えられないので家族から聞いてください」等の返事があるが、何度か聞いて早期に退院できるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には説明会で説明を行った。その後は、入所時に重度化した場合の対応を説明行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、当事業所での重度化した場合の対応で医療行為が発生するようになったりGHでの暮らしが難しくなったりした場合は、状態状況などを考慮し家族と話し合いながら支援を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特養への移動があった際はケアプランを提示し情報伝達に努めたり移動の際も家族と話し合いながら移り住んで頂いている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録については鍵のかかるキャビネットに保管を行っている。トイレなどの誘導の際に声を掛けるが、難聴などで時々声が大きくなる時がある。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ自由に過ごしていただく事を念頭においているが、危険があるときは職員が付き添いを行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出たいと希望する方は職員が付き添い散歩が出来るように支援しており外出も希望があれば支援できる態勢にしている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	以前は美容室に出かける方がいらっしゃったが、現在は、希望する方が居られないので当事業所での散髪となっているが希望があれば望む店に送迎行う。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じ畑で取れたサツマイモのつるや蕗などの皮をむいてもらったり大根の皮むき、つるし柿の皮などをむく手伝いをやってもらっている。日常は食器の片付け程度である。	○	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1日、15日は赤飯とお酒を提供するなどしており嗜好品があればその状況により提供を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入所時は失禁、リハビリパンツ、夜間はポータブルトイレ使用の方がいたが徐々に失禁なくなってきたのでポータブルトイレ、リハビリパンツをやめ普通のパンツに戻した。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな時間帯、入浴日は決めているが拒否があった方は、時間帯をずらしたり翌日に行ったりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	プレイルームにコタツを準備したら昼間はコタツに入り休まれる利用者も出てきた。家でも自由にどこでも休まれている方であった。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の得意な方には手伝だってもらったり		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かり金を預かり、日用品等は一緒に買い物に行くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出られる方については職員が付き添い事故防止につとめ希望に添って出られるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「生まれた場所にいきたい」との希望があったので現在、家はないが家族に家のあった場所を聞き故郷訪問に出かけた。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に居られる家族からの手紙、電話のやり取りは支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会があればプレイルームや居室でゆっくり話ができるようにお茶などを提供しながら家族、又は友人との時間を大切にしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料等を配布し職員に身体拘束のないケアを周知している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ほとんど玄関は外出時以外は開いておりいつでも出入り自由である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は一時間おきにプライバシーに配慮しながら巡回を行い。外に出られる方については職員が付き添うなどして対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消火器などは所定の場所に設置しており利用者が触りそうになる前の段階で回避している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火訓練はすでに一年に3回行っており消防署に報告を上げている。その他介護時の事故等に関してはマニュアルの周知のみである。防止策を講じていきたい。	○	

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルで周知はしているが、訓練を行っていないので今後行っていきたい。	○	緊急対応委員会で訓練を行っていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	朝市等で隣接の団地に交流を求めているのは災害時に協力を受けられる為に行っており防火訓練のなかでもご近所に災害時に駆けつけてもらうようにサイレンを鳴らすなどの訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	実際、病院入院で手におえないと退院された利用者を引き受ける際には家族と転倒のリスク等について話し合いケアプランも引き受ける際に作成し家族、職員に周知を行い対応した。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員の交代時の申し送りで情報伝達、共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が変わると処方箋を見て職員がわかるように心掛けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝のリハビリ体操で体を動かしているが、管下剤に頼っているところもある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアとしてイソジン液を使用しうがい清潔に取り組んでいる。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態チェック表で食事量、水分量をチェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染対策は法人の各事業所が集まり実行委員会で会議、取り決めを決めていた。	○	今後はグループホーム内で実行委員を作り対策をとっていかなければいけないと考える。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防はまな板等の消毒剤での調理前の消毒と調理したものはその日のうちに食すようにしており食材についても買いだめをしないように業者発注で毎日届けてもらっている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	職員の手作りによる表札を掲げたり、玄関を入ったら金魚の水槽や手作りのクッションを載せたいすを配置している。外回りも庭園を造っており景観的にも良いと思う。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにクッションを変えたりコタツをプレイルームに配置したりぬくもりを感じるように演出を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では仕切り等がないので一人になれる空間はない。独りになりたいと思われる利用者はおのおの居室に入っていかれる。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入所時に家庭で使用されていたもの使い慣れたものなどを持ってきていただくようにお願いしているが、できているところとできていないところがある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝からの空気の入れ替えや居室の天窓を開けて空気の入れ替えを行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリヤフリーになっており段差はない。トイレ入り口には手すりをつけている。廊下には歩行の自立支援の為に手すりはつけていない。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失見当識障害で部屋がわからない方は、ご自分の表札を見て本人の部屋が見つかっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	東方向に畑があり、西に庭園がある。花が咲く頃は「見てみなっせきれかよ」と利用者が花を見にしょっちゅう玄関から見に行かれていた。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が安心して暮らせ地域に根ざした施設作りを念頭に運営を行っております。そこで、利用者と一緒に畑で採れた野菜をもとに朝市を開催したり介護予防事業に参加を行ったりしながら利用者が自然と笑顔が出るような生活を重点に活動行っております。